

MIE PREFECTURAL COLLEGE OF NURSING

MCN REPORT

文部科学省 大学教育再生加速プログラム (AP)

**「三重の保健医療を支える
未来の看護職者育成プログラム」**
の取組を紹介します

Vol. 34
2018.2



一日みかんだい生(2頁)



目で見てわかる認知症ケア(4頁)

主な内容

「三重の保健医療を支える未来の看護職者育成プログラム」	1・2
連携協力協定病院紹介 (三重県立こころの医療センター)	3
教員インタビュー (連携協力協定病院との人事交流による教員)	5・6
さらなる発展と人材育成の充実に向けて	裏表紙



三重県立看護大学
MIE PREFECTURAL COLLEGE OF NURSING

大学マスコット
キャラクター
「みかんちゃん」



「三重の保健医療を支える 未来の看護職者育成プログラム」

の取組を進めています!

大学教育再生加速プログラム

本学は「三重の保健医療を支える未来の看護職者育成プログラム」を進めています。このプログラムは文部科学省 大学教育再生加速プログラム (AP) に平成 26 年度に採択された平成 31 年度までの6年間の取組です。

1

プログラムの概要

「三重の保健医療を支える未来の看護職者育成プログラム」は、地域のニーズに応じた地域の保健医療を支える質の高い看護職者を育成するという公立大学としての本学の使命を果たすため、真に看護職をめざす人材を確保し、確実に地域で活躍する人材を育成する取組です。

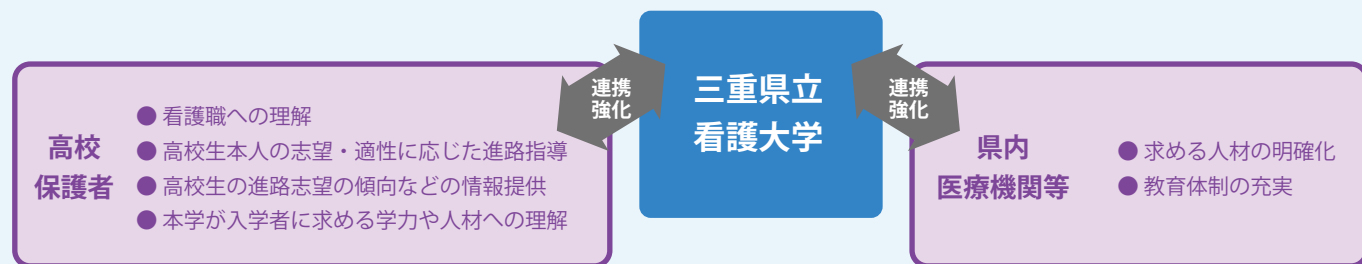
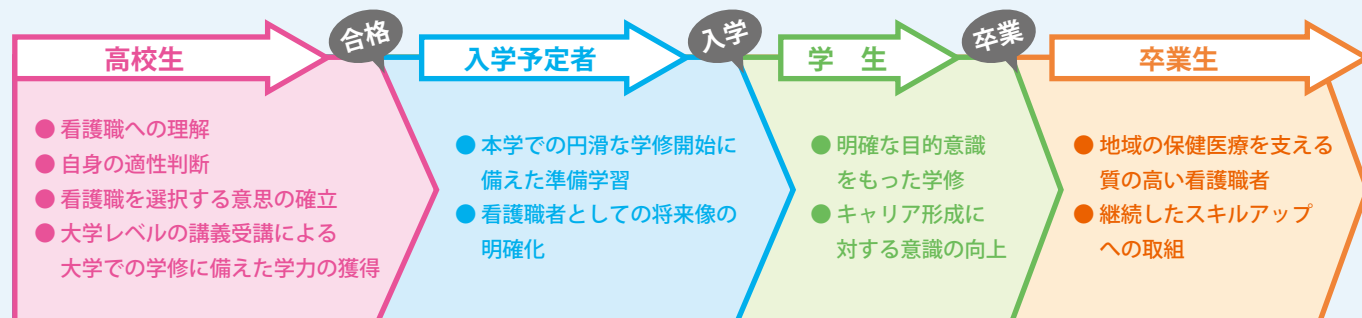
県教育委員会・県内高校との連携強化により、この取組をさらに充実させるとともに、医療機関との連携も強化し、看護職者をめざす学びに対するモチベーション及び質の向上を図り、入学前から卒業後に至るまで一貫して、地域の保健医療を支える質の高い看護職者を育成します。

高校生や保護者の方々、高校の先生に看護職についてよく知ってもらうことで、入学後のミスマッチを事前に防ぐことも大きな目的です



2

プログラムの流れ



大学教育再生加速プログラム (Acceleration Program for University Education Rebuilding (AP)) は、文部科学省が国として進めるべき大学教育改革を一層推進するため、教育再生実行会議等で示された新たな方向性に合致した先進的な取組を実施する大学を支援することを目的に、78 大学等 (短大、高専を含む) が選定されています。

本学が選定されたテーマⅢ高大接続は、「高等学校関係者と大学関係者との間で互いの教育目標や教育内容、方法について相互理解を図ること等により、高等学校教育と大学教育の連携を強力に進めるもの」と定義されています。

開催案内

高大接続シンポジウム

「高大接続から高大社接続へ」

平成 30 年 3 月 20 日 (火) 13:30 ~ 16:30

基調講演：柴田洋三郎氏

(福岡県立大学理事長・学長、公立大学協会副会長)

このほか、本学の取組報告や学生発表を行います。詳細は、本学ホームページをご確認ください。



高校生を対象とした取組

① 高校生のための看護職キャリアデザイン講座

出前授業

本学教員が県内の高校を訪問し、看護職の仕事内容や取り巻く環境について講義を行うものです。平成29年度は、22校635人が参加しました。

一日みかんだい生(8月18日(金)、19日(土) 開催:参加者85人)

高校生が大学を訪れ、現役の看護職者による講義やワークショップなどを行う取組です。看護職をめざすことを具体的にイメージし、自身の適性を考える機会となります。当日は、高校も学年も異なる参加者のグループに三看大4年生が入り、参加者の皆さんをサポートしました。参加者からは、「同じ目標を持つ仲間と交流できてよかった」「三看大生や現場で働く看護職者の方からいろいろな話を聞いて、看護の道に進む気持ちが一層高まった」という声が寄せられました。

② 高校生のためのオープンクラス(授業公開)

高校生に大学の授業を公開し、大学生と一緒に90分の授業を受講します。看護系大学での学びや普段の大学の雰囲気、学生の様子を知ることで、自身の将来や進路について考える機会となります。7月下旬と12月下旬～1月上旬に実施し、のべ96人が参加しました。



一日みかんだい生

保護者・高校教員を対象とした取組

① 保護者と高校教員のための看護職キャリアデザインサポート講座(8月19日(土)開催:参加者23人)

看護職や県内の保健医療を取り巻く現況等について説明し、高校生本人の適性や志望に沿った進路指導のサポートの一助にしてもらうことを目的に実施しています。プログラムの最後に実施したフリートークでは、保護者として子どもへのサポートの仕方など活発な意見交換が行われました。

参加者からは、「看護職をめざす子どもと共通の認識を得るとてもよい機会となった」などの感想をいただきました。

入学予定者を対象とした取組

① 三重の保健医療を支える未来の看護職者育成プログラム交流会

特別入試(地域推薦入試A・B、指定校特別枠推薦入試)での入学予定者と保護者を対象に、入学後の学修の質向上を目的として実施しています。

12月9日(土)に開催し、入学予定者33人が保護者とともに参加しました。

当日は、県内の医療機関の方にもお越しいただき、自院紹介や個別相談などが行われました。各病院の新人教育体制や、現場で活躍している卒業生からの話が特に印象に残ったようでした。

② 入学準備教育「化学」「生物」

推薦入試による入学予定者を対象に、看護学を学ぶ上で基盤となる「化学」と「生物」の2科目について、入学準備教育を行っています。独自のテキストとインターネット配信教材を使用した学習とスクーリングにより、入学後の円滑な学修の開始を支援しています。



交流会

今後に向けて

引き続き、県教育委員会や県内高等学校、医療機関等と連携しながら取り組んでまいります。

なお、今年度、独立行政法人日本学術振興会を中心に運営される「大学教育再生加速プログラム委員会」による中間評価が実施されました。今後明らかになるこの結果も踏まえ、取組をさらに進めてまいります。(中間評価の結果は、まともりしだい公表します。)

連携協力協定病院紹介

連携協力協定病院（三重県立こころの医療センター）

平成 25 年 2 月に、本学との協定を締結した三重県立こころの医療センターから、病院や看護部のめざす姿、連携協力協定に基づく人材育成の取組などをお教えいただきました。

看護部の方針「患者様、ご家族の 自己決定を支える看護を提供します」

三重県立こころの医療センターは、津市南部にある 348 床の精神科病院です。当院は、「県民の皆さんのより良いこころの健康をめざし、精神疾患があっても地域で安心して暮らせるよう、医療サービスを提供します」を基本理念としています。



こころの医療センター



夏祭り

平成 25 年に、三重県立看護大学（以下「看護大」）と連携協力協定を締結し、臨地実習病院として年間約 120 名の看護大生を受け入れています。実習では、言動や行動の観察およびコミュニケーションスキル等を学び、その人らしい人生を送るための方法を患者さんと一緒に考えることが精神科看護の基本であることを伝えています。臨地指導者は、教員と協力して、学生が少しでも患者さんの回復につながるかわかりができるように支援しています。また、多職種が連携して行う退院支援、デイケア見学、訪問看護への同行および地域の協力を得て行う夏祭りなどの行事への参加を通して、地域連携や多職種連携の大切さを伝えています。

病院情報

三重県立こころの医療センター [平成 11 年 10 月開設]

- ❖ 病床数：348 床（精神科棟）
- ❖ 診療科目：精神科、内科、歯科
- ❖ 外来：もの忘れ専門外来、アルコール専門外来、ユースアシストクリニック（YAC）、セカンドオピニオン外来、母子メンタルヘルス外来
- ❖ 職員数：217 名（うち看護部 132 名）[平成 29 年 4 月 1 日現在]

また、看護大の教員を講師としてお招きし、院内教育としてはラダー別の研修や世代を超えて集うゼミを行い、臨床での出来事を深く考える事や、気づきを得る機会としています。

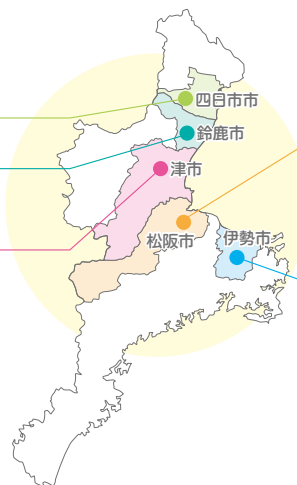
新規採用者研修は、疾患の理解やコミュニケーション・看護観などの精神科看護の基本となる学習や、精神科薬剤や倫理の研修を取り入れています。さらに、同期で悩みや困り事を話せる場も設けています。

（看護部長 犬飼さゆり）

連携協力協定病院一覧

県内 9 病院

- 地方独立行政法人 三重県立総合医療センター
- 三重県厚生農業協同組合連合会 鈴鹿中央総合病院
- 三重県立こころの医療センター
- 独立行政法人国立病院機構 三重病院
- 三重県立一志病院
- 松阪市民病院
- 社会福祉法人恩賜財団 済生会松阪総合病院
- 三重県厚生農業協同組合連合会 松阪中央総合病院
- 日本赤十字社 伊勢赤十字病院
- 市立伊勢総合病院
(平成 30 年 3 月予定)



(平成 30 年 2 月末日現在)

大学の出来事

大学の出来事

地域交流センター「公開講座」

11月と1月の2回にわたり認知症看護に係る公開講座を開催しました。

第2回公開講座は11月11日(土)に「認知症予防について～コグニサイズを楽しもう～」をテーマに開催しました。認知症を予防するための運動と頭の体操を組み合わせた日常生活で簡単にできるトレーニング法「コグニサイズ」について、テレビでもおなじみの国立長寿医療研究センターの島田裕之先生よりお話いただきました。

第3回公開講座では、NHKとの共催で、1月27日(土)「目で見てわかる認知症ケア」をテーマに開催しました。認知症の方を支えるノウハウを、認知症ケアの第一人者である獨協医科大学教授の六角僚子先生により、長年の現場教育・研究者の視点に基づき、「劇団いきり」の寸劇も交えてお話いただきました。

いずれの回も、関心のある方や現場スタッフなどの別を問わず、「大変分かりやすかった」「実践的で今後に活かそう」といったご意見を多く頂戴しました。

11月11日(土)



「認知症予防について～コグニサイズを楽しもう～」

1月27日(土)



「目で見てわかる認知症ケア」

卒業研究発表会

12月27日(水)に平成29年度卒業研究発表会を開催しました。

卒業研究発表会は、4年生一人ひとりが教員の指導のもと、約9か月間にわたって主体的に取り組んできた卒業研究の集大成となります。

各会場では、4年生や教員が熱心に報告に耳を傾け、議論を行いました。

また、来年度に卒業研究を行う3年生が熱心に報告に耳を傾け、時に質問をしていました。

修士論文発表会

1月24日(水)に、平成29年度後期の修士論文発表会を開催しました。

今回、修士論文コースの学生4名がそれぞれの教育研究領域における研究成果を発表し、質疑応答に臨みました。修士論文発表会は学位授与審議の過程の一部でもあり、研究の意義・重要度、看護学の発展に資する点、研究手法の適切性などについてのやりとりが活発になされました。学生たちは引き続き修士論文審査および研究科委員会での審議を経て、学位取得をめざすこととなります。

1月24日(水)



修士論文発表会

教員インタビュー

しばはら かな

やまの えりこ

柴原 加奈 助手・山野 恵律子 助手 インタビュー

連携協力協定病院等との人事交流制度に基づき、平成 29 年 4 月から 1 年間の任期にて本学で教育・研究活動を行っている柴原加奈助手、山野恵律子助手に、本学での活動や、病院に戻ってから抱負などをお聞きしました。

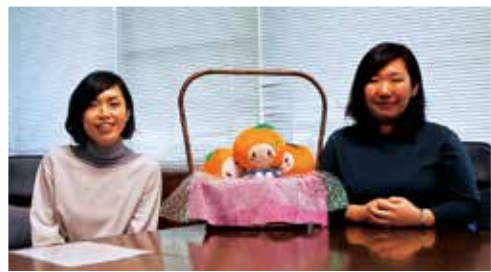
「この大学に来たからこそ、視野が広がった」

Q1 本学ではどのような研究、お仕事をされましたか。

山野 臨地実習などで学生指導に携わることができました。今までも病院内で教育に携わった経験もあります。これまでは、「教える」ということに力点を置いてきましたが、相手の様子やレベルなどをしっかり把握することや、どのように考えさせるのが大事であることなどを体感できました。

柴原 私は病棟から外来へ異動した看護師がやりがいを得るプロセスについて、研究課題に選びました。私は長い間外来看護を経験し、また、多くの同僚を見てきたからこそ、研究したい課題です。

山野 私は、病棟の組織風土などに関連した研究を行っています。やりがいのある職場、長く働ける職場をどのように作っていくかということに、非常に意義を感じています。そして、派遣元に戻ってもそういったことを大事にしたいと思っています。



Q2 赴任して1年近くとなりましたが、ご感想をお教えてください。

—まずはこの大学に来て驚いたことなどがあれば教えてください。

山野 学生、教員、職員と問わず、一人ひとりの距離が近いというか、何でも気軽に相談できる風通しの良さを感じました。

柴原 大学では、学生や教職員のあいさつが当たり前に行われていることです。すれ違う際には当たり前「こんにちは。」と皆さんは声をかけています。こういったことを皆さん普通にできていることが、すごいことだと思います。

山野 実は私もこの大学の卒業生なのですが、当時からそうだったとは、あまり記憶していません。この大学の歴史の中で積み重なってできた伝統というか、風土なのかもしれません。

柴原 昨年4月にこちらに赴任した当初、こういった風土に心強さを感じたというか、救われたような気がします。

—人事交流制度により赴任したことで得たものはどういったことでしょうか。

山野 もちろん今までも、病院のために、そして病棟のために、ということ意識して働いてきましたが、この大学に来て、その先の、「地域のために」ということを感じました。当然、地域に貢献するために病院や病棟がレベルアップしないとイケませんし、それだけでなく、地域の病院が一体となって地域の医療を支えていく、といった感覚は、ここで感じたものです。

少し大きさに聞こえるかもしれませんが、今は、「三重県で看護を受けることができ安心」という声を多くの方々から聞かれるように、頑張りたいという気持ちです。

柴原 私も得たものがたくさんあります。赴任して半年経過した時点で、学んだことの棚卸しをしましたが、これだけ多くのことを学んだのかと驚きました。

ただ、それだけでなく、「視野の広がり」は非常に大きいと感じています。「病院のために」とか「今、目の前にいる患者さんのために」と思って働いてきましたが、それにプラスして、この大学に来たからこそ、「地域」へと、視野が広がったような気がします。



柴原 加奈 助手



山野 恵律子 助手

山野 多くの仲間ができたという実感があります。戻ってからも、多くの課題の解決に向けて、病棟や病院の枠を超えて、もっとつながりたいと感じています。

—大学に勤務されることで通勤スタイルも変わったと思いますが、いかがでしたか。

柴原 電車通勤をあまりしなかったのがなかったので、「ああ、こんなものなのか。」といった新たな気づきがありました。多くの外来患者さんに接してきましたが、電車通勤を普段されている患者さんや、電車でも来院される患者さんの気持ちというか感覚が、少し分かったような気がします。(笑)

Q3 最後に、派遣元である病院に戻ってからの抱負など、お教えてください。

柴原 他の病院で働く人ともつながりたいという話がありましたが、自分の病院にとどまらない中堅レベルでの交流ができればと感じています。多くの仲間と相互につながれば、全体のレベルアップにつながると思います。

山野 こちらへの赴任の打診を受けた際に、看護師としてのキャリアにどのようにプラスになるのか心配してくれた方もありましたが、実際こちらに赴任して、後輩への教え方についてのヒントを得られたことなど、プラス面がたくさんありました。

そして、ここに来なければ分からなかった根っこの部分というか、視野の広がりや、大きな財産です。これらをどのように伝えていくのかは戻ってからの課題ですが、派遣元に多くのものを持って帰れそうです。



連携協力協定病院等との人事交流

本学では、病院等における指導的な役割を担う看護職員の育成等をねらいに、平成26年度から連携協力協定病院等との人事交流（職員の受入れ）を行っています。

派遣期間中は、本学助手として本学の教育や大学経営等に従事し、本学専任教員の指導を受けながら臨地実習指導等を行います。また、派遣期間中に研究指導を受けることや、大学院の科目等履修生向け開講科目を受けることが可能です。

派遣期間は原則1年です。毎年、前年度の秋頃から公募します。

平成30年度特別入試と今後の入試改革について

本学では、昨年11月と本年2月に、平成30年度特別入試を実施しました。

特別入試には、主に県内の高等学校に通う生徒の皆さんを対象として行う地域推薦入試（A、B、Cなどに区分）があります。そして、その合格者には、三重県内の医療機関において看護職者として働くことが期待されます。

昨年11月実施の地域推薦入試A、Bでは、ほぼ例年通りの定員に対して例年よりもわずかに多めの志願者を迎えて実施することができました。本年2月実施の地域推薦入試Cでは、数こそ昨年よりも少なめでしたが、各試験区分とも、意欲のある志願者を迎えて実施することができました。

ところで、大学入学共通テスト（いわゆる「新テスト」）が平成32年度より導入されることは、皆さまもしばしば耳にしていると思います。

現在、このテストの導入を中心としながら、大学入試の改革が急ピッチで進められています。この改革は、「大学入試の手前」である高等学校での教育のあり方や、「大学卒業後の活躍の舞台」である社会のあり方の捉え直しと歩調を合わせて進められるべき事柄です。

本学における入試改革も、こうした様々な側面を検討しながら進めている最中です。詳細につきましては、そのつど大学ホームページにてご案内いたしますので、ご確認いただきますようお願いいたします。

さらなる発展と人材育成の充実に向けて

～学生の修学支援のための基金への寄附の報告とお願い～

本学では開学20周年を契機に学生の修学支援に活用するための基金を創設し、昨年9月に同窓会や後援会等の皆さまに寄附を募ったところ、多くの皆さまからご厚志を賜っております。

◆平成30年2月末現在の状況

寄附総額 5,381,000円

寄附者数 個人 43人／法人等 11団体

本学の発展と人材育成のさらなる充実を図るため、引き続き、皆様のご支援をお願いしているところです。何卒格別の御協力と御支援をいただきますようお願い申し上げます。



お問い合わせ先 事務局企画総務課 TEL 059-233-5600



本学マスコットキャラクター「みかんちゃん」

三重県立看護大学の略「三看大（みかんだい）」の「みかん」に学生たちが持つ「優しさ」をイメージした大学キャラクターです。平成21年の法人化を機に学内からの公募で選ばれ活躍しています。



学章の由来

看護のイメージを高めてほしいという願いと、未来に向かって成長していく若者の姿を大小2つの翼とナースの「N」をモチーフにして表現しました。



「大学基準協会」の定める「大学基準」に「適合」と認定されています。

認定マークとは…法で定められた認証評価機関である大学基準協会の大学評価を受けて認定された大学に交付されたものであり、その大学が常に自己点検・評価に取り組んでいること、そして社会に対して大学の質を保証していることを示すシンボルです。



公立大学法人

三重県立看護大学

〒514-0116

三重県津市夢が丘1丁目1番地1

TEL 059-233-5600(代)

FAX 059-233-5666

<http://www.mcn.ac.jp/>



広告

医療と福祉をつなぎ いのちの虹になりたい

～それが日本最大の社会福祉法人済生会の願いです～

「癒しの看護」
患者さんが心身ともに安らかな状態にあるように看護を提供します。

社会福祉法人
恩賜財団
済生会松阪総合病院
〒515-8557 三重県松阪市朝日町1区15番地6
TEL:0598-51-2626 FAX:0598-51-6557
URL:<http://www.matsusaka.saiseikai.or.jp/>

広告

私たちがめざすのは いのちのちところを救う看護です

病院見学は、随時受け付けています

地方独立行政法人
三重県立総合医療センター 看護部
四日市市日永5450-132 TEL059-345-2321(代表)
e-mail:sogdhos@mie-gmc.jp <http://www.mie-gmc.jp>